

持続可能な保育士人材確保のための戦略と施策

—北九州市における保育士の地域帰属意識と保育士継続意向に 関するアンケート調査—

氏 名 杉山 成史

指導教員 松田 憲

要旨

本研究は、全国的な社会課題である慢性的な保育士不足に対し、従来の労働条件や経済的支援を中心としたアプローチに加え、保育士の「地域への帰属意識」や「コミュニティへの愛着」という心理的要因が、就職継続および居住意向に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。北九州市内の保育士有資格者 250 名の有効回答に基づき、共分散構造分析 (SEM) を用いて、その心理的プロセスと仮説的な因果モデルの適合可能性の検討を行った。

分析の結果、当初の仮説モデルは修正を要したが、本研究のサンプルから妥当性が示唆されたモデルにおいて新たなメカニズムが支持された。第一に、人材確保の側面において、職場への「所属感」が「市への愛着度」を高め、それが最終的な「居住意向」へと繋がるプロセスが確認された。特筆すべきは、「市への愛着度」の形成要因として、生活の利便性だけでなく、都市の「将来性・発展性への期待」が大きく寄与していた点である。これは、都市の未来に対するポジティブな予期が、そこで働く保育士自身のキャリア展望や自己効力感 (Bandura, 1977) といった心理的概念と整合的であり、定住意欲を喚起する重要な要因であることを示している。第二に、人材定着の側面において、「保育士継続意向」と職場への「所属感」の間に極めて強い正の関連が見出された。この「所属感」は、日々の「勤務地 (職場) 満足度」によって強く規定されており、Winnicott の「ホールディング」機能のように、職場環境そのものが保育士を心理的に支える基盤となっていることが示唆された。また、継続意向が高い保育士ほど職場の「相談体制」を肯定的に評価していることから、適切な支援体制が定着の鍵となっていることが明らかとなった。

本研究の成果は、保育士の定着支援が単なる福祉施策に留まらず、地域の人口定住策

としての側面を持つことを実証した点にある。具体策として、専門性を可視化する「保育マイスター制度」の推進や、地域愛着形成を軸とした移住・就職支援を提言する。北九州市における保育士確保においては、他自治体との競争になりがちな経済的支援（衛生要因）の充足に加え、地域社会での自己有用感や所属感を高める「動機づけ要因」の強化が不可欠である。保育士が地域に愛着を持ち、専門職として尊重される環境を構築することこそが、質の高い保育の継続的な提供を可能にし、ひいては「子育てしやすい街」としての都市の持続可能性を支える有効なアプローチであると論じた。経済的支援という「衛生要因」の充足に加え、地域社会での自己有用感や所属感を高める「動機づけ要因」の強化こそが、持続可能な人材確保と定着の鍵であると結論づけた。